



プロフィール ● やすだなおよし

1975年、日本電気に入社し、汎用機 (ACOS-6) 上でのB言語による開発やBSD Unixでの開発・教育等にかかわる。1989年、日外アソシエーツに移り技術開発室を創設し、Unix、TEX等で版下編集出力システムを開発・実用化する。1996年からはデアイティでインターネット事業に参画。現在、NPO日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA) 主席研究員。その他、委員会や執筆記事など多数。

まな手口の知識を共有し、みんなが知っている状態になっていなければなりません。

これまでは、愉快犯や自己顕示欲の矛先として、不特定多数を狙うウイルスやワームの類が主流でしたが、すでに、金銭搾取を目的とした職業的詐欺集団がインターネットを利用して不特定多数の獲物を求めて仕事を始めています。インターネットにはまだうぶ初心で無知なユーザーが多く、手口もあまり知られていないので、仕事がかどるのでしょう。しかも必要な投資はパソコンを用意しネットワークにつなぐだけです。

逆に、技術的な攻撃は、相手を特定して攻めてくるようになるでしょう。いわゆるサイバテロの類です。足跡を残さずプロの仕事を行うわけです。標的になるところは限られますが、可能性がある場合はそれなりの準備が必要です。一方で、情報漏洩を起こした事件件数を原因別に見ると、盗難、紛失・置き忘れが57.7%であり、不正アクセス、ウイルス、バグ・セキュリティホールは4.4%です。また、漏洩経路で見ると45.9%が紙媒体です。個人情報漏洩人数で見ると、不正持ち出し、内部犯罪、盗難で78.2%になります^{※5}。ネットワーク特有の手口よりは、案外レトロで物理的な原因が多いようです。いずれにしても、何をどのように防ぐかのリスク管理が重要なことには変わりありません。

これからのインターネット

インターネットのプロトコルであるTCP/IPv4が1973年に米国国防総省で開発が開始されて以来30年以上の年月がたっています。その間、色々な拡張や修正、そしてIPv6の制定などが

ありました。物理層の回線部分は、10Gbps以上のEthernetに進化しています。「次にできたらいいこと」を考えると、アプリケーション層のプロトコルに思い当たります。例えばSMTPの電子メールでは、発信してしまった後、相手を読んでいるか否かに関わらずキャンセルはできませんが、普通の郵便ではどこの国でも何らかの取り戻しや変更ができています。インターネットが社会基盤になるに従い、このような社会的な要求に基づく「機能」も実装したくなるのではないかと思います。できるできない、できる条件、実現するためのコストなどを広く議論し検討しても良いのではないかと思います。JPNICが何らかのまとめ役やIETF等へ議論を持ち込む窓口として機能してくれると、フレンドリーな組織になるのではないかと考えます。

『技術だけでは問題は解決しない。しかし技術の裏付けがなければ施策もできない』という言葉をかみ締めていきたいと考えます。インターネットの萌芽に出会い、若葉の頃からの成長を見届け、立派な大樹に育ち周りにさざなみを送り始めた今、これからどのように空を飛んでゆくか、大変に楽しみではあります。ひとり立ちした子供を見るような感じかもしれません。これからは、『自分の人生を自分で決めて歩んでいくのだよ』と。■

※1 JPNICの歩み
<http://www.nic.ad.jp/ja/profile/history.html>
※2 財団法人インターネット協会監修「インターネット白書2005」2005年6月21日発行 インプレス発行
※3 総務省統計局「平成17年国勢調査 全国・都道府県・市区町村別人口(要計表による人口)」全国の人口
<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/youkei/01.htm>
※4 社団法人電気通信事業者協会 事業者別契約数 (平成17年12月末現在)
<http://www.tca.or.jp/japan/database/daisu/yyymm/0512matu.html>
※5 NPO日本ネットワークセキュリティ協会「2004年度情報セキュリティインシデントに関する調査報告書」v1.1.
http://www.jnsa.org/active/2004/active2004_1a.html